

警城時報

編輯 石城郡平町福屋町十四
印刷 石城郡平町福屋町十四
發行 石城郡平町福屋町十四
電話 一四三三
郵政 第一四三三
日刊（日曜日）休刊

平銀行の改稱で

行員の異動發表

支店長は中村梅三郎氏
十六日から看板塗替ひ

常盤銀行と合併する事に決じた佐藤信三氏でその他は全部従平銀行は大蔵省の正式認可に接し、整理一切が完了した。主務省から正式に合併が認可されたので、念々十六日から常盤銀行支店と改稱、その他支店、出張所も夫々改稱される事になった。之と同時に行員店の大異動が發表された。

一万五千圓を 四十七名に分配

退職慰勞金
平銀行が十六日から常盤銀行支店と改稱する事は前項の如くであるが、現在の行員四十七名

十萬枚の宣傳ビラを 濱三郡に配布

江幡社長からは挨拶状
平銀行を愈々常盤銀行平支店と改稱するに際し平支店長に決した中村梅三郎氏は語る。

以上各氏が夫々任につくわけである。而して平銀行本店に於て有賀幸太郎氏は留任、神谷辰五郎氏は退職、端山正男氏は土浦支店に轉任する筈であるが本人の都合により退職するものと見られ、支店並に出張所關係の退職者は湯本支店の小野金太郎、新田目春松、原町支店の今村源八、青田四郎以上四氏である。又平銀行から常盤銀行本店に榮轉する人は小谷義雄、端山輝、

以て萬事隔意なく御命を戴きまして御不便の点は相伴に協力改良に心懸けます様に致し度いと存じます 拜具
昭和四年二月
株式會社常盤銀行
取締役會長 江幡 新

泉小學工事竣成

石城郡植田町中山組の請負にかゝる石城郡泉村小學校増築工事は竣工に至り九日工事委員その他関係者立會の上引渡し手續きを終つた。

妙齡の婦人が 溜池に投身

蓄膿症で頭を悪くす
赤井村大字赤井理髮業光満四女佐藤スミ子（二〇）は昨年十月平町藤田女學校を退いて湯本町天

根本氏 當選

壓倒的多數で
多額納税者議員の補缺選挙は十三日行はれ十四日開票されたが結果左の如く、政友派根本祐太郎氏が壓倒的多數を以て當選した。

渡邊養鶏講演

石城郡渡邊村では十七日午前九時より同小學校に勿來養鶏組合主任三輪信成氏を聘して養鶏講演會を開催の筈。

武中技師の靈術 病人を癒す

見ても癒す
福島縣種畜場長農林技師武中武來氏の術をうけるといふ程有吉氏（高等官二等）は石城産馬畜名になつてゐる。この武中技師が昨日來郡したといふ事を聞いて十二日午後三時頃不在中戸が、武中技師は、神經痛、リウマチ安島重三郎氏は錦村金成通氏を同技師が各方面に出張すると難病で苦しんでゐる人が群集して

山崎植電技師 米國に遊學

植田水力電氣株式會社技師山崎安氏は今回土木事業研究のため米國サンパウロ市に遊學する事になり一時同會社を退いて、來せる様になつた。夢ではないか四月十日横濱解纜のモンテビゴ大喜びに満ちた由である。又テオ九で渡航する事になつた。十四日午前この事を聞いた尾形氏の出生地は相馬郡中村町で相產業主事は昨年十一月から足が馬中學校大正三年卒業後仙臺高等工業學校電氣科を卒業し植電城郡役所に来て約二十分程技師とつた人で渡航後の着任の術をうけた處これ又平氣で歩けるやうになつたので、見てる人もこれは不思議と技師の術

主義への道

マルクス主義への道
（三） 和歌蘭生
、私は原稿を、當時ミスシンクスに居た唯一のマルクシスト、パラムンに渡して批判を乞ふた、彼は家宅搜索を怖れて、彼の住んでゐた家の庭に原稿を隠して置いた。翌朝彼が原稿を取り出しに行くとどうもそこには見當らなかつた。原稿がどうなつたか、犬が引つぱつたのか、子供が破つたのか、或は大人が何かを利用したのか、憲兵の手に落ちたか、は分らなかつた。邦譯者は云ふ「本書を讀む者は誰しも、シャポワロフが歩いたマルクス主義への道は實に苦惱と艱難に満ちてゐたことを知るであらう。それはマルクス主義が決して一個の片片たる流行理論でなく、實に近代の虐げられた階級が自己の解放のため身を以て銀へ上げて來た、又銀へ上げて行く一的生活武器であることを示してゐる」と勞働者、農民諸君の熱讀を希望して止まぬ、のみならず本書は又、知識階級にとつてもよき贈物であることを切言してゐる。扱つてこれからの僕のおせつかいになるのであるが、墮落者も君よ誤解するな、僕は墮落しても良心は持合はしてゐる。

に驚き入つた、武中技師は語る「二十年前に覺えた術で、今では恭や將棋をやるやうな道樂のつもりでやつてゐます」

錢箱を盗む

植田町大
吉氏（高等官二等）は石城産馬畜名になつてゐる。この武中技師が昨日來郡したといふ事を聞いて十二日午後三時頃不在中戸が、武中技師は、神經痛、リウマチ安島重三郎氏は錦村金成通氏を同技師が各方面に出張すると難病で苦しんでゐる人が群集して

山崎植電技師 米國に遊學

植田水力電氣株式會社技師山崎安氏は今回土木事業研究のため米國サンパウロ市に遊學する事になり一時同會社を退いて、來せる様になつた。夢ではないか四月十日横濱解纜のモンテビゴ大喜びに満ちた由である。又テオ九で渡航する事になつた。十四日午前この事を聞いた尾形氏の出生地は相馬郡中村町で相產業主事は昨年十一月から足が馬中學校大正三年卒業後仙臺高等工業學校電氣科を卒業し植電城郡役所に来て約二十分程技師とつた人で渡航後の着任の術をうけた處これ又平氣で歩けるやうになつたので、見てる人もこれは不思議と技師の術

根本氏 當選

壓倒的多數で
多額納税者議員の補缺選挙は十三日行はれ十四日開票されたが結果左の如く、政友派根本祐太郎氏が壓倒的多數を以て當選した。

妙齡の婦人が 溜池に投身

蓄膿症で頭を悪くす
赤井村大字赤井理髮業光満四女佐藤スミ子（二〇）は昨年十月平町藤田女學校を退いて湯本町天

泉小學工事竣成

石城郡植田町中山組の請負にかゝる石城郡泉村小學校増築工事は竣工に至り九日工事委員その他関係者立會の上引渡し手續きを終つた。

錦村信用組合 けふ創立總會

石城郡錦村信用組合創立總會は十一日の紀元節を以て開催の筈であつたが各種準備の都合上十四日午後一時より同村小學校に開催役員選舉等を行ふ筈である

涙ぐましい 師弟の情味

目下某病院に入院加療中の石城郡錦小學校訓導野木正雄氏の植田町の留守宅妻女の許へ先頃夫君が水の病氣でさぞかし種々の不自由であらうと木炭を鐵道便で送つて来た者があつたが差出人の名もない處から不審し内々調査中皆川源三郎と稱する青年が若干の金を持参見舞として差出したので先の炭の贈り主も同人と判明するに至つた、この青年は野木氏が石城郡錦村第二小學校に奉職中大正十一年度の卒業生で恩師の承らぐの病氣を知り留守宅に同情し同期生の藤ツルヨと發起し三十人の同級生より醸金したもので一面野木訓導の教へ見に對する人情味の豊さも窺はれるが青年子女の報恩觀念がやゝもすれば忘却され勝の今日近來の美談とされてゐる因に野木氏も近く退院出来る事となつてをりこの厚意に涙してゐる。

時報文藝

一輪咲きし眞赤な椿も
物思ふ羽はつれなしと見ゆ
ポストマンの投げ込みし便り
無味と思へど手に取りて見ん

人に問はれて胸をさぐるげど
惱む瀬もなし捨小舟なれ
或る夜つもりし初雪に
彼女を書きてそつとけしぬ
惱みの雪も我ならで
美し景色と讀へ見るらむ

ハガキ集

▲私は都に假の宿を持つてゐるもので、そして故郷の變遷を警報時報で見ているので、私達の清らかな郷土の進展振りを夕刊を通じて東京の人々に見せて自慢して私も得意になつて居ります、だがハガキ集には時々心ある者が惱ます様な事が掲げてあるやうです。諸君！此のハガキ集をもつと有意義に使用し然してもつと高尚な趣味に生きやうではないか。(クロトー)

一葉印刷所

平町字仲町
電話七三四番

既成 御注 文品 勉強

高島屋洋服店

平町田町通り
電話八七〇番

日掛金融通開始仕候

但し確實なる連帯借用の方に限る
合資 平町三丁目
會社 常磐興信所

養命酒

不思議な靈効を有する
まむしのエキス
半ヶ月分一・五〇
一ヶ月分二・〇〇
甘味にして頗る芳香飲み易し眞に補血強壯劑の高級品也
代理店 山野邊藥局
平町五丁目角

陽新界の權威

加納活版所
電話二〇五・九〇四番



本劑の偉力により
頭腦を
明晰にし
社會の
落伍者
たる勿れ

貸家あり

住宅向き
商店向き
委細面談
平町新川町
中野勇吉

防寒具の御用意は!!!

トインバ 九〇〇ヨリ
オーパ 七〇〇ヨリ
モチリ 四・五〇ヨリ
其他各種豊富着荷
なかや洋服店
平町二丁目(電話二〇三)

安全第一

諸債券、公債類の御用は是非迅速簡易を
モットーとする弊店を精々御利用下さい
營業 勸業債券 兩替
復典債券 金融
公債其他
課目 質物一般取扱
店商井田多
町工大町平

藤沼醫院

内科、小兒科 入院應需
花柳病科
平町紺屋町
電話五〇七番

石版活版印刷

三國屋印刷所

平町鍛冶町
電話五三三番

青春の小徑

紅い花散る青春の夢、田舎乙女の戀と涙の一大交響樂
日活特作義士三部曲の一篇 監督池田富保 主演新妻四郎
定評ある新妻の不破數右衛門... 優の自信と確固たる信念... 絶對の名作
料金値上せず 學生テ一平 館 電話四六六

本縣酒界の最高清酒

於全國清酒品評會優等酒入選
於福島縣下聯合品評會最高優等酒入選
本縣 會津銘酒 花春 樽 發賣仕候
一升代金壹圓五十錢 特價發賣
發賣 白萩支店 綠川酒店
電話四四三番 電話八三二番
釘屋酒店 磐崎屋酒店
電話一五五番 電話六六三番